

緑中技術部

桐生さんが最優秀賞

木工コンテスト全国大会で

1月25、26日の両日に都内で開かれた第20回全国中学生創造ものづくり教育フェア「木工チャレンジコンテスト」の全国大会で、飯田市緑ケ丘中学校技術部2年の桐生明空さん(14)が、最優秀賞となる文部科学大臣賞とワールド・ウッド・デー基金会長賞を受賞した。全国大会での最高賞受賞

は同部初の快挙といえる。コンテスト当日に都内で開かれた第20回全国中学生創造ものづくり教育フェア「木工チャレンジコンテスト」の全国大会で、飯田市緑ケ丘中学校技術部2年の桐生明空さん(14)が、最優秀賞となる文部科学大臣賞とワールド・ウッド・デー基金会長賞を受賞した。全国大会での最高賞受賞

は同部初の快挙といえる。コンテスト当日に都内で開かれた第20回全国中学生創造ものづくり教育フェア「木工チャレンジコンテスト」の全国大会で、飯田市緑ケ丘中学校技術部2年の桐生明空さん(14)が、最優秀賞となる文部科学大臣賞とワールド・ウッド・デー基金会長賞を受賞した。全国大会での最高賞受賞

に仕切り板を設けて、より多く収納できる工夫をした。審査員の視線を感じて緊張したという桐生さん。「練習でやってきたことを出そう」と落ち着かせ、良い物を作ろうという気持ちで取り組んだ。終了時間20分前に組み立てを終え、余裕を持ってやすりがけの仕上げができたという。

顧問の三石直規教諭によると、のこぎり、かななどなどの技能が基本に忠実で、丁寧かつ正確な作業が評価された。「木を削る際にいい音が出ている」と伝えられたという。三石教諭は「作業に安定感があった。木目など木の使い方を考え、細部にまで気を配っていた」と話した。

桐生さんは「教える」と感謝。「大会を通じて技術が向上した」とし、「これから」と語った。



最優秀賞を受賞した桐生さん

に理解深めて で読書のつどい



子どもの読書の重要性を指摘(豊丘村ゆめあてで)

子どもを持つ親などが参加。読書の意味や誕生日図書の意味を学び、子どもの読書に対する周囲の大人の役割についても関心を高めた。

子どもたちの心豊かな成長を願い、村内の保育園児から中学生までに「誕生日図書」を贈っている同村。1996(平成

子どもを持つ親など、読書に関心のある大人が参加。冒頭、壬生英文教育長は「人材育成100年計画の四半世紀に初心に返り、これからの取り組みを考へる実りある会にした

聞かせとブックトーク」と題し、子どものうちから本を読むことの重要性を解った。長年同村の誕生日図書事業に携わってきた経験から、同事業の意義を強調した。

越高さんは「誕生日図書に面白くない本は1冊もない。子どもが読まなかった。会場には誕生日図書に選書された本や子どもたちが音楽物語にして学んだ「こんぎつね」の感想文などが展示され、来場者らが足を止めていた。

桐生さんは「教える」と感謝。「大会を通じて技術が向上した」とし、「これから」と語った。

聞かせとブックトーク」と題し、子どものうちから本を読むことの重要性を解った。長年同村の誕生日図書事業に携わってきた経験から、同事業の意義を強調した。

越高さんは「誕生日図書に面白くない本は1冊もない。子どもが読まなかった。会場には誕生日図書に選書された本や子どもたちが音楽物語にして学んだ「こんぎつね」の感想文などが展示され、来場者らが足を止めていた。

越高さんは「誕生日図書に面白くない本は1冊もない。子どもが読まなかった。会場には誕生日図書に選書された本や子どもたちが音楽物語にして学んだ「こんぎつね」の感想文などが展示され、来場者らが足を止めていた。

営者を養成する「実践経営者コース」(2年制)の願書を17日まで受け付けている。就農希望者が対象で、10人定員の小規模クラスで実践的な授業を実施している。

例会

◆天竜川RC
天竜川ロータリークラブ(佐々木和人会長)の第1323回例会は3日午後0時半から、高森町の美好で開く。クラブフオーラム「IM準備」。

メモ

◆日本語教室わいわい
サロン学習成果発表会
市内の日本語教室や国際交流団体のパネル展示や活動紹介など(午後1時から、飯田市役所)